

## RS ウィルス感染症とは何？

今、インフルエンザが蔓延しています。沖縄では数年前からインフルエンザの流行が夏場でも途絶える事はありません。今年は「**新型インフルエンザ**」も加わり、発熱で来院する患児が「**夏カゼ**」なのか診断が難しいのが現状です。うがい、手洗い、マスクでの予防が大切です。

さて、インフルエンザが大流行すると、流行が下火になる傾向があるという「**RS ウィルス感染症**」についてお話します。毎年、年末から春先まで（沖縄では梅雨時期の6月ころまで）、乳児にまず鼻汁が出て、そして咳など普通の風邪症状で始まり、続いて38~39度の発熱、そして日を追うごとに次第に**コンコンコンと苦しそうな咳、ゼーゼー、ゼロゼロなど喘鳴（ぜんめい）を伴う咳**になっていく場合があります。3~5日後には**咳や呼吸困難のために夜も寝られず、おっぱいも飲まなくなります**。いかにも乳児喘息の症状ですが、これが**典型的な「RS ウィルス感染症」の経過**です。

重篤な喘息性気管支炎として近くの那覇市立病院へ紹介する乳児が少なくありませんが、ほとんどの場合が「RS ウィルス陽性」だったと返事が返ってきます。

**RS (Respiratory Syncytial) ウィルス感染症は、乳幼児（特に1歳未満）の細気管支炎の50~90%、喘息性気管支炎、肺炎の50%を占めます**。1歳までにRS ウィルスにかかる人は約70%で、そのうちの1/3が細気管支炎や肺炎などを起こすという報告もあります。2歳までにはほぼ100%の人が感染し、その重症度は年齢と共に軽くなっていきます。

生後6ヶ月未満の乳児では数時間で症状が悪化したり、また無呼吸発作のため**乳幼児突然死症候群**を起こす原因の一つともいわれています。

飛沫や接触により感染し、潜伏期間は3~5日で主に鼻や眼からウィルスが侵入すると言われていますので、マスクでは十分には予防できません。手洗いとうがいが大切です。また免疫ができてくいために**何度でも再感染**を起こします。最近RS ウィルス感染が乳児喘息を誘発することが分かってきており、ゼーゼー、ヒューヒューしやすい乳児は要注意です。通常1~2週間で軽快します。

診断法は簡単で、鼻や喉を綿棒でこする迅速（じんそく）診断キットが有用ですが、入院患児しか保険適用がないため、外来では一般的ではありません。

家庭における対処法は、こまめに水分を与え、加湿器などで室内の湿度を50~60%に保つようにします。寝ている時に咳き込むなら、少し上体を起こしたり、横向きに寝かせたり、手のひらを丸めて背中をトントンたたいてタンを出しやすくします。

外来ではゼーゼーしやすい子には、ロイコトルエン拮抗剤（オノン、プランルカスト）が有効とされており積極的に使用されています。

入院治療は重症の喘息管理に類似しており、酸素投与、輸液、ステロイド、気管支拡張剤などが使用されます。特効薬はありませんが、現在、ハイリスクの患児（低出生体重、心肺系の疾患、免疫不全）には予防接種（シナジス）が施行されています。（たまなは）